

医学史研究の立場からの感染症

19世紀ロンドンと東京のコレラ流行の比較
ー川と運河と日常生活の水利用について

2024年 11月 27日 (水)

18:00 – 19:30 (議論が続けば延長)

開催形式：対面とオンライン(Zoom) のハイブリッド

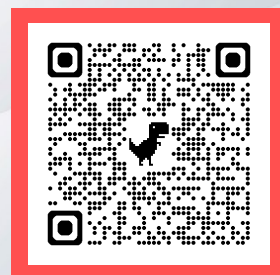
対面会場：東北大学医学部6号館 1階 講堂

星陵キャンパスMAP B08 (<http://bit.ly/40GFWp7>)

- 対象：東北大学の教員・学生 / 東北大学外の研究者・学生
パンデミックに関する学際研究に関心のある方 (若手研究者歓迎)
できれば対面会場で討論に参加していただくことを推奨します
- 交流会：対面会場では終了後に簡単な交流会を実施
- 使用言語：日本語
- 登録締切：2024年11月26日(火) 15:00

参加登録

<https://forms.gle/Hbo8HSVKn4mSLDs7>



話題提供

鈴木晃仁 (東京大学人文社会系研究科・教授)

1986年、東京大学 (科学史科学哲学) 卒。1992年、University College London (UCL)のウェルカム医学史研究所でPhDを取得。1997年に慶應義塾大学経済学部で助教授、2005年に教授。2021年に東京大学人文社会系研究科の死生学応用倫理の教授となり現在に至る。イギリスと日本の精神医療の歴史と感染症の歴史の研究を中心に国内外で活躍している。